

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念及び当ホームの理念を理解し、日々振り返りもしながら理念の実践に努めている。	法人の理念とホーム独自の理念がある。開設から長い年月受け継がれてきた、「明るく、楽しく、元気よく」「その人らしく輝いて」「優しい心で」「地域に根ざして」というホームの理念が模造紙に大書され誰の目にもとまるよう玄関横に貼られている。家族にはパンフレットを渡すなどして理念を説明している。サービス会議の冒頭で理念を唱和し会議を始め、職員は常に振り返りの機会を持ち、初心を忘れず実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々への日常の挨拶、地域でのお祭り、節分、祇園祭など見物させて頂いている。近隣の保育園との交流会も月に1回開催している。	事業所として自治会費、お祭り等の寄付を納めている。ホームの向かいにある公民館の庭に「獅子舞・神輿」が巡行するので見物に出かけるという。保育園児の来訪時には歌や踊りの披露があり、利用者の楽しみの一つとなっている。地域の中学生や高校生のスプリングチャレンジ・サマーチャレンジ、高校・専門学校の実習生等を受け入れ、日常的に交流をしている。ホームの便り「ぼうやま通信」は季節毎に発行され、職員の紹介、交流会や外出の様子等が掲載され、運営推進会議の委員や施設見学者に配布しホームの活動を地域に知らせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や高校生のサマーチャレンジ等の実習で受け入れたり、外出支援時にボランティアさんをお願いしたりするときに認知症の方の支援方法を伝え理解して頂けるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度推進会議を開催し、事業活動、入居者様の様子、また行事など経過をお伝えし、意見をいただいている。消防署の方にも参加して頂き、指導もいただく機会にもなっている。	奇数月の第4金曜日に開催し、利用者の状況、活動状況や行事予定等を報告している。参加メンバーは利用者代表、家族代表、民生委員、市福祉課職員等で構成され、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。9月には消防署員立会いの下避難訓練が実施され、同時に運営推進会議が開催された。消防署員、自治会長も参加メンバーに加わり質疑応答をしたという。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市への報告を行ったり、広域連合より来られる介護相談員さんへ入居者様の日頃の様子をお話したりしている。また、認定調査員さんへは、個々入居者様の心身状態を細やかにお話している。	家族の依頼があれば更新申請や区分変更申請等を代行している。認定調査の折にもホームでの様子を伝える等、協力している。市から派遣される2名の介護相談員が2ヶ月に一度来訪し、利用者が外部者へ向けて意見を言える機会も設けられている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のセンサーなどを活かし、入居者様の離脱への取り組みをしたり、個々居室への定期的巡回、見守りをするなどの安全に配慮した支援に努め、拘束の無い対応をしています。	法人の基礎研修に組み込まれている身体拘束に関する研修受講は必須であり、毎年繰り返し研修を受けている。法人内には委員会が複数あり、ホーム職員も所属している。身体拘束委員会では何気なく使っている言葉までも取り上げ議論しているという。利用者の行動抑制や身体拘束をしないケアについて職員は十分理解し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス会議時、職員間で学び合い、共に振り返り、虐待行為が見過ごされることの無いよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について資料の読み合わせ、理解し活用したいと考えています。職員の中では、地域での成年後見人制度学習会に参加している職員もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項説明を十分に行い、不安の無い手続きをします。改定時には、文章添付の上説明をし、ご理解いただけますよう対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意し遠慮なく要望等を伝えて下さるよう努めている。面会時には、細やかなお声掛けをさせて頂き、気軽に相談して頂けるように努めています。	殆どの利用者は自分の意見や思いをなんらか形で表現しているが言葉の裏を探らないと理解できないこともあるという。新年会と敬老会を兼ねた家族会では忌憚のない意見を聞けるよう、普段から良好な関係を保つよう取り組んでいる。遠方に在住し面会の頻度の少ない家族にも配慮し、写真入りのお便りやホームでの様子を手紙にしたため家族に郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の相談に乗ったり、知識・技術等の指導をしています。職員ノートに沿って面接を行ったりし、活力のある職場づくりに努めている。	毎月、サービス会議を開催している。法人から発信された伝達事項や各委員会からの報告、カンファレンス等が行われ職員間で共有している。来年度の本格導入を前提に人事考課制度が進められており、職員は各自目標管理シートを作成し管理者との面談を半期毎に行い、意見や提案を具申している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員のそれぞれの実績を認め、相談に乗り、職員が向上心を持って努められるよう、環境・条件を整える努力をしている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のそれぞれの実績と力量を見極め、法人で行われている研修・勉強会への参加を促したり、自ら育成に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フレンド会（近隣グループホームの会）に参加し、交流、交換研修を行っている。また、法人内での交換研修もあり、互いに向上し合いサービスの質を高めていく機会となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の訴え、思いに耳を傾け、ご本人様が安心して生活に臨めるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、不安に思う事などしっかりお聞きし、心配事が少しでも軽減できる対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様とご家族様が望む生活のニーズをしっかりとお聴きし、あらゆる社会資源を取り入れての支援に努めたいと考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の歌や、風習や、方言等教えて頂いたり、長い人生で養われた思い、考えを伺い学ばせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、請求日には日頃の様子を記載したお手紙を添えてお伝えしたり、面会時にもご報告しています。また、通院介助・外出などの支援もご家族様の協力を頂きながらなされています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援時には、ご本人様のお住まいの方にドライブをしたりします。ご家族・友人の面会もいつでも歓迎しております。ご家族の元への外泊もお勧めしたいです。	外出時に希望に沿って自宅に立ち寄るなど、出来る限り馴染みの場所や人との関係性が途切れないように支援している。個々の利用者の培ってきた関係を把握し、お付き合いが継続できるよう努めている。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのどのお席も好きな所に座って頂き、職員も入居者様の輪の中に入り、和やかに会話できる雰囲気作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了した後も、ご利用者様のその後をも担っていただける支援、相談、必要不可欠な情報提供に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を伺ったり、難しい場合には、ご本人の日々発せられる言葉から思いを推しはかり意向を探ったりして出来る限りご本人の思いに添うよう努めています。	日々の暮らしの中で聴き取り、一人ひとりの希望や意向は出来る限り叶えている。好きなことや得意とすることを選択肢として多く取り入れ、自己決定ができるよう努めている。食事作りや洗濯物畳み、布巻き、豆分け等を役割としてやっていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から生活歴をお聞きしたり、前のケアマネさんからの情報提供により、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員記載の記録、申し送りから現状を把握して対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のサービス会議時に、入居者様各担当者モニタリング記載、発表してもらい以後のサービスについて検討している。また、週に一回の訪問看護師よりの意見、指導を受けサービスに反映させている。	職員は1名から2名の利用者を担当しており、モニタリング表で目標の進捗状況を把握しチーム全体で共有している。また、訪問看護による医療の視点も含め現状に即した計画を作成している。6ヶ月に一度の見直しを基本とし、状態等に変化がある場合は随時対応している。計画の変更時には本人や家族に説明し承諾をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を詳細に記入し、特別なことは申し送り事項へ記載して申し送り、職員間での情報の共有を計り、計画への見直しにも活かされている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合等に対応して、通院介助や、緊急の場合の入院付添いなど、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からのボランティアさんの受け入れや同法人うえだ敬老園よりの応援や定期的に来て下さる傾聴ボランティアなど、地域、周りの方々に支えられ、楽しみを頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が受診時付添いをして下さっている。必要に応じて医師の情報提供を文章で行ったり職員が同行させていただいたりしている。	かかりつけ医については本人や家族の希望を優先している。基本的には受診と通院は家族対応とし、必要な情報は文書にし家族に渡している。状況によっては職員の付き添いもあり、臨機応変に対応している。週1回の訪問看護があり、利用者の健康管理や相談、援助などを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が健康観察を行っている。その際、職員よりの情報提供を行っている。指示に従い、その後の介護支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、随時病院へ伺い、主治医、看護師、相談員より情報を交換、共有し、安心な治療を受けて頂くとともに、早期退院となるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの対応は考慮しているが、現在は重度化している入居者様は居ない。看取りの方がいる場合には、十分なインフォームドコンセントを行い各関係者、職員一丸となって対応したい。	「重度化対応及び終末期ケア対応指針」があり契約時や必要時に説明をしホームとして出来ることを十分に説明し取り組んでいる。過去に1名の方の看取りケアを行い、本人や家族、医師、訪問看護師等との連携を密にとり一丸となって取り組んだという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行っている救急法の研修に参加しており、急変時の初期対応に応じられる力は身についている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器扱い訓練なども実施した。日頃、管理者、職員共に意識の強化に努めたい。	年2回の昼・夜想定訓練(通報・避難・誘導)を実施している。また、消防署員立会の下、消火訓練・避難訓練も行われた。法人の防災対策担当者による定期巡回、食料品や介護用品の備蓄、スプリンクラーや自動火災報知機の設置もされており有事に備えている。訓練には自治会長や民生委員も参加し、近隣には同じ法人の施設もあることから地域との協力体制が構築されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様に対し、尊厳の念をしっかり持っています。プライバシーを損ねたり、気持ちに傷をつけるような声掛けは有りません。	法人の基礎研修にも組み込まれている人権啓発研修があり、毎年繰り返し研修を受講し意識を高めている。マニュアルも整備されており、尊厳や人格の尊重についてサービス会議で議題に上げ全員で話し合っている。同姓介助を基本としているが利用者の気持ちに配慮しさりげなくケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様それぞれ、ご自身の思いに寄り添って穏やかに生活されるよう、見守り、声掛けをさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションを進めるにあたっても、何がしたいかなどお尋ねし、皆様がのびやかに楽しい時間を過ごして頂けるよう声掛け、支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の服選びもお聞きしながら選び、介助させて頂いております。朝の整容にも努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、法人本部の栄養士が作成しております。時には、ホームが独自でアレンジすることもあります。食事の形態もその方に合うようミキサーを使ったりし提供しています。入居者様が盛り付け、洗い物など手伝って下さいます。	基本の献立は法人の栄養士が立てている。特定の日を定め希望献立を取り入れ利用者の希望を叶えている。殆どの利用者は常食で、自分で摂ることが出来る。個々の状態に合わせて食事形態を変えて対応することもある。ホームの庭先の畑、「ぼうやま農園」にきゅうり、茄子、ピーマン等を植え収穫を楽しんでいる。夏場は畑から収穫された採れたての野菜が食卓に花を添え会話も弾むという。一人ひとりの力を活かしながら食事が楽しみなものとなるよう支援している。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事の様子、量など見守り把握しております。水分についてもお食事時、お茶の時に見守り、促し必要な水分もとって頂けるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず実施しています。義歯洗浄介助、自立の方にも促し、見守りを行う事でちゃんと磨いて頂いています。また、週2回、義歯洗浄剤を使用して、清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様その方その方に合った排泄支援をしています。排便のリズムなども把握し、出来るだけ失禁せずトイレで排泄が可能になるのか模索中の方もいます。	約半数の方は誘導にてトイレで排泄しており、昼夜を通してオムツを使用している方はいない。一人ひとりの排泄パターンや排泄用品等を検討しトイレでの排泄を可能にしている。少しでも立位がとれればトイレで排泄出来るように援助内容に盛り、実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や冷たい乳製品、水分の提供や、軽い運動を取り入れたりし工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、毎日お風呂は準備しているので、希望をお聞きしながら対応しております。他、便失禁等で必要時にも入って頂いています。	希望に合わせて入浴が出来るようにしている。基本的には週2回の入浴を実施している。寒くなると入浴を拒む利用者もいるがファンヒーターを使用し、暖かい浴室で着脱できるように配慮がされている。入浴剤等を使い楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お疲れの表情が伺えた時には、居室で横になって頂いたり、その時々に応じて見守りをしながら対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人に服薬内容がファイルされていて、職員それぞれが理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングで、皆が一同で風船バレー、カルタ取りなどレクリエーションに参加することもあれば、個々で洗濯物たたみ、豆分け作業をすることもある。楽しみながら、気持ちよく参加されている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添った外出支援に心掛けている。皆様一同に出掛ける行事（花見、七夕、紅葉狩り）や、個々に対応して、近隣のスーパーへおやつを買いに出かけることもある。生き生きとした入居者様の笑顔が見られます。	季節毎の外出計画がありホーム全員で出掛けている。春には隣の市の公園へ花見ドライブに出掛け、夏には中心市街地の七夕、秋には紅葉狩りなど、移り変わる季節を楽しみながら気分転換をしている。家族や兄弟と出掛け食事や買い物を楽しめる方、散歩を兼ね近所のスーパーへ出掛けおやつを買われる方、食材の買い物に一緒に出掛ける方等、一人ひとりの希望に沿い外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方は2名様です。金曜日にパン屋さんが来ます。外出支援で買い物に出ておやつを購入します。ご自身でお金を払われるときは、笑顔いっぱいです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人からの個人的電話もお繋ぎしますし、ご本人からのお申し出があった場合には、いつでも対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の色合いや、カーテンの色も温かみのあるものを使用しております。また、壁などには季節に応じ飾り物を作成し飾るなど工夫し、心地よく過ごせるよう努めています。	増改築された建物は、何処か懐かしさを感じさせる設えであり、居心地の良い空間である。共用スペースは機能的かつコンパクトな造りで、明るい日差しが降り注ぎ、利用者と職員が日中の殆どをここで過ごしている。共同で作成したちぎり絵や交流会の写真等が所狭しと飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのどのお席も決めることなく、その時々、思い思いの場所に腰を下ろされ、入居者様同士で交流されている事もよくあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたもの、なじみの物を持ち込んで頂けるようお願いしています。それぞれ差はありますが、当ホームからは、お祝メッセージ、写真をプレゼントし飾って頂いています。	民家改修のため増築された部分があり居室毎に広さや間取りが違っている。箆箆や仏壇等の馴染みの品々が持ち込まれ利用者が居心地良く過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの入居者様が安心して過ごして頂けるよう、足元の整備をしたり、お気に入りの椅子を用意したり工夫をしています。多くの事に気づきを持って接してまいりたいと考えます。		